

報告書

海外教育研究D
(台湾)

2026年3月3日～3月8日

令和
7年度

上越教育大学

目 次

参加者および担当教員名簿	1
日程表	2-3
参加学生の報告書	4-17



令和7年度 海外教育（実践）研究D（台湾）参加者名簿

No.	所属 1	所属 2	学籍番号	学年	氏 名	フリガナ
1	学部	-	20252074B	1	須賀 瑞希	スガ ミズキ
2	学部	-	20252083A	1	瀧口 結衣	タキグチ ユイ
3	学部	-	20252129C	1	紅粉 蓮美	ベニコ レミ
4	大学院	教科教育・教科複合 実践研究コース(美術)	20255511B	1	福嶋 由歩	フクシマ ユホ
5	教員（引率）	芸術・体育・総合教育学系 教授	/		五十嵐 史帆	イカラシ シホ
6	教員（引率）	国際交流推進センター 准教授			藤谷 元子	フジタニ モトコ

令和7年度 海外教育（実践）研究D（台湾）日程表

旅行期間 令和8年3月3日（火）～3月8日（日）
目的地 国立嘉義大学及び附属小学校
参加者 6名（学生4名、引率教員2名）

日数	日付	出発地／到着地	時間	交通機関	用務先（宿泊地）
1	3月3日(火)	成田空港 集合	11:30		
		成田空港 発	13:45	JX801便	
		台北桃園空港 着	16:50		
		台北桃園空港 発	18:00	HIS専用車（日本語ガイド有）	
		途中コンビニ等に寄って夕食を購入			
		嘉義市内ホテルチェックイン	21:00		
		朝× 昼× タ×			嘉義泊
2	3月4日(水)	国立嘉義大学附属小学校 授業見学（予定）		附属小が手配したタクシー	
			朝○ 昼× タ×		嘉義泊
3	3月5日(木)	国立嘉義大学附属小学校 午前：授業実践（予定） 午後：嘉義文化研修（予定）		附属小が手配したタクシー	
			朝○ 昼× タ×		嘉義泊
4	3月6日(金)	ホテル発	8:45	嘉義大のバス	
		嘉義大学ランタンキャンパスツアー	9:10-10:20		
		嘉義大学発	10:20		
		Chiayi Municipal Wu-Fong Preschool（嘉義市立呉鳳幼稚園）着	10:40		
		幼稚園の環境と設備の紹介、台湾と日本の交流活動など	10:40-11:30		
		Chiayi Municipal Wu-Fong Preschool（嘉義市立呉鳳幼稚園）発	11:30		
		Yuh Tong Hotel（鈺通大飯店）で昼食会	12:00-14:00		
		Yuh Tong Hotel（鈺通大飯店）発	14:00	HIS専用車（日本語ガイド有）	
		台北市内ホテル着、チェックイン	17:00		
		朝○ 昼○ タ×		台北泊	
5	3月7日(土)	午前：文化研修（未定）			
		ホテル発 九份へ移動	15:30	HIS専用車（日本語ガイド有）	
		九份散策	16:30-18:30		
		ホテル着	19:30		
		朝○ 昼× タ×		台北泊	
6	3月8日(日)	ホテルチェックアウト（BOX朝食を配付予定） 空港へ移動	7:00	HIS専用車（日本語ガイド有）	
		台北桃園空港 着	8:10		
		台北桃園空港 発	10:10	JX802便	
		成田空港 着	14:20		
		手続き終了後 成田空港到着ロビーにて解散			現地解散 ※成田空港～上越の移動は、各自で 手配願います。
		朝○ 昼× タ×			
宿 泊 ホテル	嘉 義	Chiayi King Hotel／嘉義皇爵大飯店 （3泊＝3月3日チェックイン、6日チェックアウト）	No. 234, Xinrong Rd, West District, Chiayi City, 台湾 600		
	台 北	洛基大飯店林森館／Green World Inn (Lin-Sen) （2泊＝3月6日チェックイン、8日チェックアウト）	No. 617, Linsen N Rd, Zhongshan District, Taipei City, 台湾 10491		

日本上越教育大學來訪行程(更新)

Visit and Exchange Schedule between the Affiliated Elementary School of National Chiayi University and Joetsu University of Education

2026 年 3 月 4 日星期三

時間	內容	地點
9 : 00-9 : 20	抵達附小，歡迎式-雙方代表致詞、致贈交流物品、合照	皇爵飯店至附小、二樓校史室
9 : 20-10 : 00	學校簡介(影片)、校園導覽	嘉大附小校園
10 : 00-10 : 20	教材準備	二樓校史室
10 : 20-11 : 00	日本童玩、遊戲或文化介紹 (日本學生)	5 年 4 班學生 30 人
11 : 00-11 : 50	日本童玩、遊戲或文化介紹 (日本學生)	5 年 5 班學生 30 人
11 : 50-13 : 00	午餐、休息	二樓校史室
13 : 00-14 : 00	走訪樂團(本校國樂、管樂團)	三樓樂團團練教室
14 : 00-16 : 00	走訪檜意森活村、北門車站、嘉義博物館	嘉義市林業文化園區、嘉義市博物館
16 : 00~	離開附小，明天見	

2026 年 3 月 5 日星期四

時間	內容	地點
10 : 00 : 10-20	抵達附小、準備觀課	皇爵飯店至附小
10 : 25-11 : 50	觀課與實作-六年級視覺藝術	美勞教室
11 : 50-13 : 00	午餐、休息	二樓校史室
13 : 10-14 : 00	臺日教師互動時間 觀課心得分享	二樓校史室
14 : 20-16 : 00	嘉義林業特色 DIY、舊監宿舍區巡禮	舊監宿舍區
16 : 00~	離開附小，期待再相見	

報告書

学部1年 B1クラス

20252074B 須賀瑞希

海外教育研究 台湾

私は高校時代の文化研修で台湾の学生と交流する機会があり、その経験を通して台湾という国に興味を持つようになった。また、大学では英語の力を高めたいと考えており、英語を用いた教育実習を海外で経験できる今回の研修プログラムに参加した。授業実践では英語を用いて和柄に関する授業を行い、その中でも子供たちになるべく分かりやすい英単語で説明することに注力した。今回の研修では教育面だけでなく、台湾の文化についても理解を深めることができた。研修では嘉義と台北の二つの都市を訪れ、それぞれ異なる雰囲気を感じることができた。嘉義では夜市が非常に栄えており、多くの人で賑わっている様子が印象的であった。屋台では様々な食べ物が販売されており、特に鶏肉飯は印象に残った料理の一つである。一方、台北では観光地である九份を訪れ、歴史的な街並みや独特の雰囲気を体験することができた。また、現地で出会った人々はとても親切であり、食事も美味しく、台湾の文化の魅力を実感する機会となった。

生活面では、日本とは異なる習慣もいくつか見られた。例えば、トイレトペーパーを流さないことや、電車のきっぷがコイン型であることなどは、日本ではあまり見られな

い特徴である。このような生活習慣の違いを実際に体験することで、文化の多様性をより具体的に理解することができた。

今回の研修を通して、台湾の教育や文化について実際に体験しながら学ぶことができたことは非常に貴重な経験であった。特に、教育現場を直接観察することで、授業の進め方や教育環境の違いについて考える機会を得ることができた。今後はこの経験を大学での学びや英語教育への関心につなげていきたいと考えている。

海外実践研修D(台湾) 所属 学校教育学部

一年 瀧口結衣

はじめに

まずなぜ私がこの授業に参加したかという、日本と海外の教育制度の違いを学びたかったからです。特に台湾の進んだ教育政策によって構成される授業やそれに伴って生徒の成長にどのような影響が出ているのかを知りたかったからです。また、互いが理解できる英語という言葉を使って海外の子供に授業ができることに魅力を感じ参加をしました。

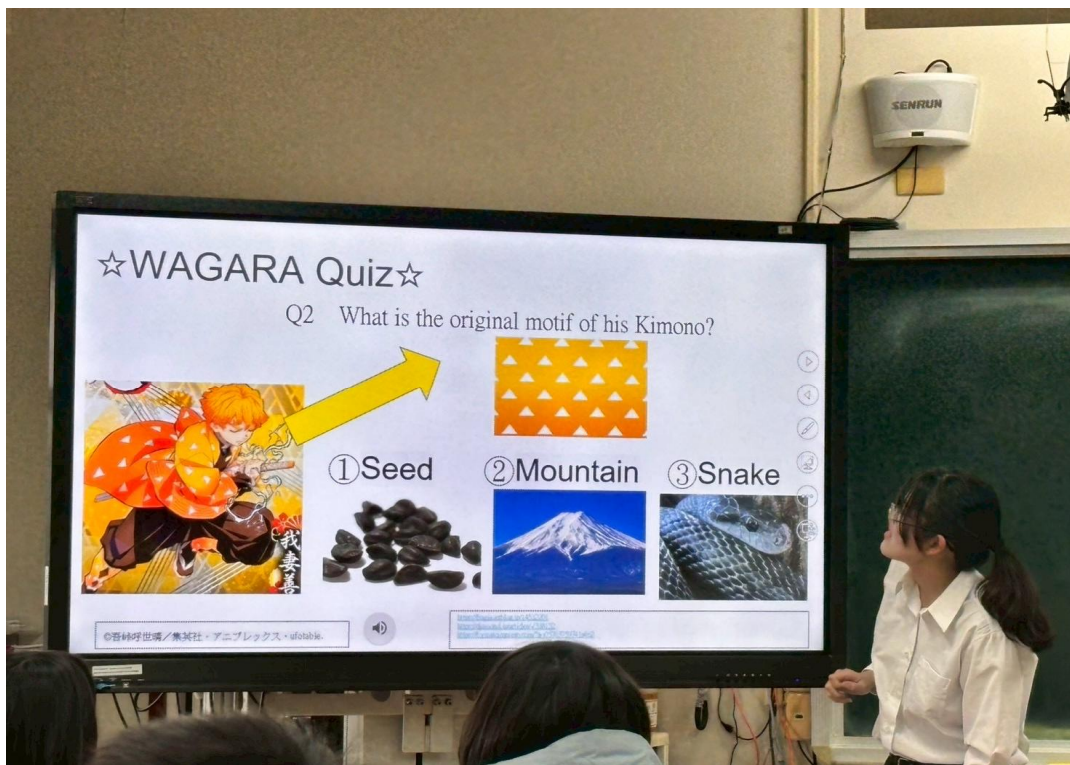


授業実践

今回の授業は「鬼滅の刃」を元に和柄について理解を深めるものでした。大まかな流れとしては鬼滅の刃のキャラクターを使いながら和柄を説明し和柄のデザインについてクイズをし理解を深めたのちに生徒に思い思いの和柄キーホルダーを製作してもらうとい

う流れでありました。渡航前の授業準備の段階から英語の細かいニュアンスや発音などを先生方に確認してもらい最終的には本番で落ち着いて指示が出せるところまで上げることができました。

授業は二回行われました。最初の回ではスライドをうまく操作できない部分があり少々戸惑うこともありましたが、事前にスクリプトをしっかりと理解していたのと附属小学校の生徒の皆さんが積極的な授業参加をしてくれていたおかげで無事授業内で終わることができました。二回目の授業は初回の反省を生かしスライドのタイミングを修正することでスムーズに進み、生徒の反応をみて言葉がけもできるようになりました。





日本との教育の違いについて

今回私達は国立嘉義大学の附属小学校に訪問しました。おそらく公立の小学校よりかは規模が大きく設備も充実した所であるとは、考えられるためそれらを考慮した上で台湾全体で行われているであろう特徴だと感じたのは、教科書の内容に沿って授業を遂行するのではなく教員が取り入れたいと思った教材や外部の材料を取り入れたりできる所です。

台湾では教科書の内容を全て教えるという義務はないそうです。日本でも副教材を使用することは可能ですが教科書には完全準拠することが前提となっておりそこから内容を広げた授業をするのは時間的にも教師の負担的にも厳しい部分があると感じるのでこのように一部を寛容にして視野を広めるような制度はうまく利用することでより得るものが増えるのではないかと感じました。

附属小学校ならではの感じたのは科学室などの特別教室が複数存在することです。広い校舎の中に多くの特別教室が存在し生徒の多さを感じました。さらに校舎の最上階にはプラネタリウムが設置されており生徒が天体に対して興味を引くように工夫されていました。

附属小学校は入学のための試験がなく周辺地区に住んでいることで入学資格が得られるそうです。言い換えれば、場所さえ確保できれば誰でも高度な教育を受けられるということです。数多くの子どもたちにより高度な教育を受けさせたい台湾政府の考え方がこのような形で表現されているということがわかりました。





文化研修

小学校への見学後周辺にある歴史的家屋へ見学をしに行きました。嘉義市は近くにある阿里山から伐採されたヒノキの出荷が有名だったことから、日本の統治下中出荷を仕事としていた日本人の仮住まいもヒノキの木造建築となっていました。小学校のPTAの方々のご好意で施設内の説明をしてくださり地域の歴史についても知ることができました。





終わりに

今回の渡航は私自身初の海外渡航だったので緊張する面もありましたが大学の先生方や受講生、そして嘉義大学の方々が暖かく迎えてくださったため全ての刺激を吸収できるとても良い研修になりました。日本以外の教育制度に触れることができ海外と日本の違いを知れた上、礼儀や家族を大切にしているなどの日本と共通の特徴があることも今回の研修で分かりました。私は日本の教育制度に興味があるのですがこうして海外の教育方針を実際に見て学ぶことでより自国の制度を客観視するための材料が増えたと思います。

これからの大学生活でも今回の研修中に培った積極性を忘れず主体的に学習に取り組んでいけるようにしたいです。

海外教育研究D報告書

学部1年 20252129C 紅粉蓮美

1.はじめに

私が本研修に参加した主な理由は、小学校における英語教育に興味があるからである。台湾は小学校英語教育が進んでいるということを知り、本研修を通じて、台湾の教育について現地で学べるという貴重な経験をしたいと考え、参加を決意した。

2.台湾の教育

・国立嘉義大学附属小学校の見学・授業参観

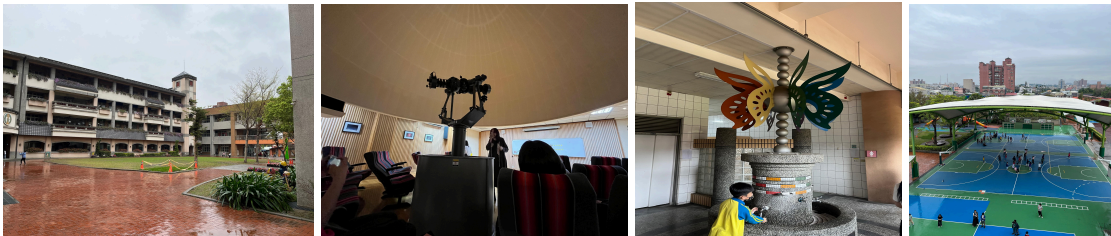
附属小学校を見学させていただき、最も印象的であったのは、学校全体が明るく楽しそうな雰囲気に包まれていたことである。児童も先生方ものびのびと過ごされている様子が伝わってきた。日本ではタブレット端末などが1人1台配られて、休み時間などでも使用してしまうことが多いが、そのような光景を見なかったのが驚いた。

その他に印象に残ったことは、視察した小学校や国立嘉義大学の敷地面積や施設の規模の大きさである。日本の学校と比較して、その大きさに驚かされた。広大な校舎の中に、小学校では雨天時でも遊べるバスケットコートやプラネタリウム、大学では充実した実習棟などがあった。物理的な規模の大きさをもたらす充実した教育設備・環境が、児童や学生たちののびのびとした活動や、多様な学習機会を支えていることを実感した。

また、6年生の図画工作の授業を見学させていただいた。版画の作品について、先生が作業する手元を、タブレットを通じてテレビに投影したり、電子黒板を使用したりと、ICT機器を活用していた。児童が自身の作品に取り掛かる前に、お手本の版画を全員で実践してみるという方法が印象的であった。

・嘉義市立呉鳳幼稚園の見学

幼稚園の活動について園長先生から説明していただき、特に芸術分野の活動の豊富さに驚いた。



3.授業実践を行って

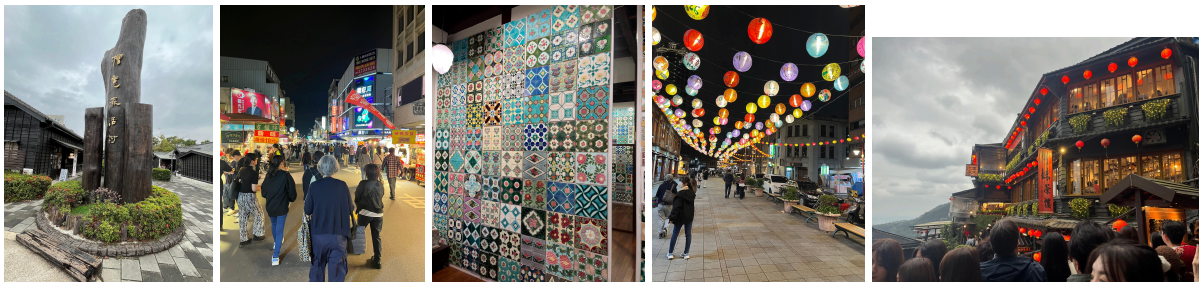
本研修のメインプログラムとして、国立嘉義大学附属小学校で、日本の和柄をテーマにした授業を、英語で実践した。日本の伝統的な和柄を紹介し、それぞれの柄に込められた意味や由来を説明した。その後、和柄が印刷されたワークシートに、児童が自由に色をぬり、キーホルダーケースに入れてオリジナルキーホルダーを制作した。児童たちが思い思いに黙々と色をぬっている姿が印象的であった。完成したキーホルダーを嬉しそうに掲げる姿を見て、言葉が完全に通じていなくても、体験を通じて共有する楽しさを実感した。

数ヶ月前から授業準備やリハーサルなどを行ってきた、大きな緊張もなく本番を迎えたが、リハーサルの段階では予想していなかったことが起きた。学生同士の臨機応変な対応や、先生方の支援のおかげで、無事授業実践を終えることができた。英語で声かけをしていく中で、直接的な表現ではなく柔らかい表現で児童に声かけをするのが難しく、児童にあまり積極的に話しかけられなかったことが自身の課題となった。言葉にすることにこだわるだけではなく、ジェスチャーなどを交えて、児童に分かりやすく伝えようとすることも大切であると実感した。初めて実際に児童に向けて授業を行い、声かけの難しさや自身の課題などを痛感したが、多くの学びや充実感を得た経験となった。



4.文化研修の感想

文化研修では、ヒノキビレッジや嘉義夜市、寧夏夜市、故宮博物院、九份など、様々な場所を訪れ、見聞を広げることができた。特に、日本にはない夜市という文化が強く印象に残った。台湾の食文化を楽しみ、現地の人々の温かさに触れることができた。屋台に並ぶ数々の食べ物は、どれも大変魅力的であった。特に印象的であったのは、鶏肉飯と魯肉飯である。現地の名物を堪能することができ、故宮博物院では、膨大な作品の数々やその精巧さに圧倒された。



5.終わりに

本研修を通じて、教育に対して広い視野を持つことが非常に大切であると学んだ。国立嘉義大学附属小学校の「子どもたちそれぞれが輝く星」、嘉義市立呉鳳幼稚園の園長先生からいただいた「ゆっくり時間をかけて、愛情を込めて、子どもたちの才能や可能性を見つけて」という言葉の数々を胸に、教員を目指していきたい。

最後になりますが、本研修を通じて、多くの方々の協力を得て、大変有意義な経験を積むことができました。皆さまの温かいご支援に、心より感謝申し上げます。

海外教育実践研究Dレポート

令和7年度の海外教育実践研究は台湾の嘉義大学附属小学校で行われた。大まかな日程は下の通りである。

実施期間:令和8年3月3日～令和8年3月8日

3月3日 成田空港から台湾桃園空港を経由し嘉義市着

3月4日 嘉義大学附属小学校にて授業実習

3月5日 嘉義大学附属小学校にて視覚芸術の授業を見学
木工実習、博物館見学

3月6日 嘉義大学キャンパスツアー、台北へ移動

3月7日 故宮博物院見学

3月8日 台湾桃園空港から成田空港へ



本レポートでは、授業実践についてと台湾と日本の美術教育の違いを中心にまとめる。

I 授業実践

1. 日本で準備したこと

和柄を紹介し和柄のキーホルダーをつくるという授業内容は11月の時点で決まっていたため、どのようにして楽しみながら和柄を知ってもらうかを考えた。以前に海外教育実践研究で行われた授業のビデオを参考に、3択クイズを行うことにした。また、アニメの「鬼滅の刃」が台湾でも人気とのことから、キャラクターの着物を通して和柄を紹介することとした。

どのキャラクターの着物の柄をクイズに出すかと、クイズの順番についても検討した。小学生を対象としているため、石畳をモチーフとした市松模様などは親みにくいと見え、クイズには出さないこととした。出題の順番も1番目に「炎」、2番目に「蛇の鱗」、3番目に「亀の甲羅」というように難易度が上がるようにした。2問目の選択肢にピラミッドを入れていたが、藤谷先生から、形が似ているため誤答を招きやすく、引っ掛け問題のようになってしまうとご指導いただき、種へと変更した。藤谷先生からは英語の綴りや言い回しについてもご指導いただき、小学生でも伝わるスクリプトを作成することができた。

実技面では五十嵐先生からご指導いただき、塗るときに手でおさえられる大きさにすることや、色をつけるための用具についてもアドバイスをいただいた。ワークシートの作成にもご協力いただき、画用紙をいただいたり、切り取るためのマシン目を付けるカッターをお借りしたりした。授業の準備では、学部1年生の3名と共に自分達でできることを考えて取り組んだため、分担を決めなくてもお互いをフォローしあって進めることができた。



2. 授業実践

1回目の授業では、クイズの1・2問目で回答を表示してしまうというミスをしてしまったが、クイズ担当のAmeliaが気持ちを切り替えて3問目で盛り上げてくれたことで、なんとか乗り切ることができた。2回目の授業では、つくる時間を確保するためにキーリングの袋を開けておくなど、改善を試みて臨んだ。クイズの画面操作も完璧で、リハーサルを含めた中でもベストの授業を行うことができた。

1回目も2回目も、子ども達は楽しんで和柄に色を付けていた。キャラクターの着物の色を付けている児童もいたが、場所によって色を変えるなど塗り方を工夫したり、色の組み合わせを楽しんだりする様子が多く見られた。

II 台湾と日本の美術教育の違い

1. 洪先生の授業を見学して考えたこと

2日目には嘉義大学附属小学校の視覚芸術の先生である洪先生の授業を見学した。2時間のうち1時間目で版画の技法や歴史についての講義を行い、後半の1時間は教師がつくった版を用いて刷りを体験するという内容であった。

自分が授業する場合は、版画の技法や歴史などはほとんど触れず、主題について考えた後で下描きに入り、試行錯誤をしながら版画の技法を知るというプロセスを取るため、40分技法や歴史について話す様子を見て驚いた。児童も集中が途切れることなく話を聞いており、講義形式に慣れているようだった。

また、教師の版を使って刷りを体験させることにも驚いた。日本では自分のつくった版で刷る方が思いをもって活動できると考え、参考作品を見せることはあまり行わない。参考作品を見せることで、かえって児童の発想を妨げることがあるためである。しかし、版画では刷りでつまづくことが多いため、技能の定着をねらいとするならば刷りを体験することは有効であると考えられる。

洪先生以外の授業を見ていないため断言はできないが、台湾の美術教育では、技法の知識や歴史、技能の定着へ重点が置かれ、日本では技能の定着よりも自分の思いを表すことや試行錯誤し表現を工夫することを大切にするという違いがあると考えられる。



III まとめ

今回の海外教育実践研究では、子ども達が楽しんで活動する姿から、形や色などの造形的な要素が言語の壁を越えて主体性を引き出すことが分かった。また、台湾の授業と日本の授業を比較したところ、「知識や技能の定着」と「思考や表現力を身に付ける」というプロセスに違いはあるものの、どちらの国も児童の感性や創造力を育むことを目指していることが分かった。さらに交流を深めることで、台湾と日本の美術教育のよいところを共有し、よりよい学びをつくり出していく。